



# 未来を変える方程式

$$FMn \equiv FLKMchain(mod 9)$$

古代ギリシアのピタゴラス学派は「万物は数である」と考えていました。

そうした考え方は、対称性と循環性と有限性に富む数学の群論やコンピュータのアルゴリズムを手にした近年になり、より鮮明になりました。それを如実に示しているのが「万物は数に基づいて生み出されている」というこの合同式なのです。

## 1) 簡単な説明

$FMn \equiv FLKMchain(mod 9)$  とは「フトマニ数列群(FMn)は、法を9とするモジュラー算術(mod 9)で観察すると、FLKM系列と合同( $\equiv$ )になる」ことを方程式で示したものです。

## 2) 詳細な説明

神聖比例(黄金比 =  $\Phi \doteq 1.618$ )を生じるフトマニ数列群(フィボナッチ数列はその特殊例)は、法を9とするモジュラー算術(mod 9)で処理すると、全てが24項で循環する4つの数の流れであるFLKM系列のいずれかになる。

## 3) 補足説明

### ① フィボナッチ数列 【1,1,2,3,5,8,13,21,34,55,89,144,233,377,610、、、】

$$F_n = F_{(n-2)} + F_{(n-1)} \quad F_1=1, F_{(n+1)}=1, n \geq 2 \quad \text{例 } 233/144 \doteq 1.618 \doteq \Phi$$

### ② 法を9とするモジュラー算術:(mod 9)

ある数を9で割った余りの数に置き換えてしまう算法、一般には剰余算、時計算、合同計算などと言われますが、特に9という数が選ばれているのは古代のひふみ算やカバラ算と同様です。

### ③ FLKM系列は以下の4つの系列の総称

F系列(フィボナッチ系列) 【0,1,1,2,3,5,8,4,3,7,1,8;0,8,8,7,6,4,1,5,6,2,8,1】

L系列(リュカ系列) 【0,2,2,4,6,1,7,8,6,5,2,7;0,7,7,5,3,8,2,1,3,4,7,2】

K系列(ケン系列) 【0,3,3,6,9,6,6,3,0,3,3,6;0,6,6,3,9,3,3,6,0,6,6,3】

M系列(ミチコ系列) 【0,4,4,8,3,2,5,7,3,1,4,5;0,5,5,1,6,7,4,2,6,8,5,4】

### ④ フトマニ数列群:FMn

「二つを足して次の間に置く」(フトマニが読みとれる)というフィボナッチ数列と同じアルゴリズムは、日本古代の「フトマニ」思考に隠されていたと私は考えていますので、それに由来して命名しています。フィボナッチ数列は特殊論で、このフトマニ数列は一般論と言えます。この一般論の数列は無限に存在するので群を付けています。もちろん全てが黄金比を生じるのです。

例: 初項=10、第2項=12 の時は 【10,12,22,34,56,90,146,236,382,618,1000,1618,2618、、、】

第12項は1618で、第11項の1000との比は1.618となり、黄金比が判り易く出て来ます。

これを(mod 9)で計算すると、 $10 < 1, 12 < 3, 22 < 4, 34 < 7, 56 < 2, 90 < 0$  が現れます。

この1,3,4,7,2,0 の並びから、この例の数列は上記のL系列に一致すると考えるのです。